

# 令和3年度小中英語パートナーシップ事業 推進地域実践報告(県中地区)

共通テーマ 「豊かな言語活動を通じた、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

	拠点校Ⅰ (天栄村立天栄中学校)	拠点校Ⅱ (天栄村立広戸小学校)	協力校 (天栄村立大里小学校)	協力校 (天栄村立牧本小学校)
次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の英語に自信が持てず、伸び伸びと表現できない生徒が見られるため、「英語による発信力の強化」につながるICT機器の適切・妥当な活用方法をより具体化する。</li> <li>○ 「英語の村てんえい」ならではのリソース(QQEnglish、セカクル英語活動、英語検定)をいっそう効果的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童の実態に合ったより効果的な言語活動(帯活動もふくめて)</li> <li>○ 児童の外国語の学びの見取り方(評価)</li> <li>○ CAN-DOリストの効果的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国語科の学習だけでなく、他教科の学習の中でも教師が英語を使って指示を出したり、ほめたりする場面を作っていくたい。また日常生活力の向上については、既習事項からピックアップしてたくさん英語にふれる機会をもっていくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「英語で話したい」「英語で伝えたい」という思いをもつことができるような目的や場面、状況を設定し、必要感のある問いを引き出す。</li> </ul>
取組を振り返って	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ タスク活動や社会的課題に関して意見文を書く活動、即興的に話す活動などの「発展的な課題」を意図的に与えることで、生徒の「思考・判断・表現」を促進することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ わくわくする課題の設定や、活動をする目的や場面、伝え合う相手を明確にもった言語活動により、コミュニケーションをする楽しさや、達成感を味わうことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読む力・聞き取る力・書く力については、上達してきている。ALTのサポート、QQEnglish、Speaking Quest、英語検定などの活動が大きい。苦手意識をもちはじめている児童へのサポートを考える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目的・場面・状況の具体的な設定により、子どもたちから「英語で伝えたい!」「時間割を作るために正確に伝えたい!」という思いを引き出すことができ、その後の主体的な伝え合い活動、発信力の向上につながっていった。</li> </ul>
課題に対する具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学び合い」の推進を通して「聴き合える生徒」の育成を図るとともに、ALTとの学び、QQEnglish、セカクル英語活動、英語検定等を通して、学んだことを活用しながら表現する場を設定した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元を見通した指導計画と、具体的な課題設定のもとに行う言語活動の充実を図ることについては、単元で児童に付けたい力(発信力)を明確にしながら、実態に合わせて、教科横断的な内容も踏まえて取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 5人と少人数なので、個別に対応しながら学習活動を行ったことや、ALTのサポートやタブレットを活用した学習を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「英語で話したい」「英語で伝えたい」という思いを高めることができるような目的・場面・状況を設定し、発信する必要感のある問いを引き出すことを大切に、授業づくりを行った。</li> </ul>
年度当初の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題や話題について自分の考えをまとめたり、得た情報からさらに自分の考えをもつことが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 積極的に英語で受け答えをしようとする力が弱い児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日常の簡単な会話を英語で話せる力を身に付けさせたい。また、平易な英語の文章を読む力を伸ばしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 英語で話すことに対する自信のなさから、友達の前で話したり、コミュニケーションを図ったりする学習を苦手としている。自信をもって主体的に英語を用いて発表したりできるようにしたい。</li> </ul>

## 推進地域の重点的な取組

- 村内の小中学校が連携し、本村で実施している「つなぐ教育事業」とタイアップさせながら英語教育の充実を図る。
  - ・ 小中全校による授業研究会を開催し、指導方法等について協議するとともに、小中連携したカリキュラムを検討する。
  - ・ 小5～中3の5年間を見通したCAN-DOリスト形式による小中連携した学習到達目標について検討する。